

【開催主旨】

木曾川上流河川事務所管内における施設能力を上回る洪水に対応するため、沿川の自治体や県、国等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するための取組状況のフォローアップや参加機関の取組事例の紹介及び意見交換を実施しました。

【開催概要】

開催日：平成29年8月10日（木）

会場：一宮地場産業ファッションデザインセンター 2階 第1会議室

出席者：一宮市長、江南市長、稲沢市長、犬山市、扶桑町、愛知県尾張県民事務所長、愛知県一宮建設事務所、名古屋地方气象台、（独）水資源機構中部支社事業部長、木曾川下流河川事務所長、丸山ダム管理所、木曾川上流河川事務所長

来賓：大治町長、名古屋市、小牧市、岩倉市、清須市、北名古屋市、あま市、大口町、愛知県尾張水害予防組合管理者、愛知県建設部河川課長、新丸山ダム工事事務所長

議事：①水防法等の一部を改正する法律について
②木曾川上流水防災協議会規約の一部改定について
③木曾川上流水防災協議会における取組みのフォローアップ等について
④意見交換

○取組事例の紹介

- ・一宮市 中野市長、江南市 澤田市長、稲沢市 加藤市長
- ・犬山市 小川市民部長兼防災監、扶桑町 岩田総務課長



第3回木曾川上流水防災協議会
（愛知ブロック）の開催状況

愛知ブロック開く

木曾川上流
水防災協議会

木曾川上流水防災協議会
会は10日、第3回協議会
愛知ブロックを開いた。
木曾川上流河川事務所
管内における施設能力を
上回る洪水に対応するた
め、沿川自治体や県、国
などが連携して、減災に
向けた取組みを行って
いる。

当日は、2020年を
めどに水防災意識社会を
再構築するため、取組
みのフォローアップや、
一宮市、江南市、稲沢市、
犬山市、扶桑町が取り組
んでいる事例を紹介し
た。事例紹介では、防災
情報公式ツイッターやバ
ルーン式交通遮断機の設
置、小中学校を対象とし
た防災教育実践指定校業
務委託保水貯留槽整備な
どが挙げられた。

【中野一宮市長】



- ・一宮市は平成28年4月より、防災情報に特化した「一宮市防災情報公式ツイッター」の運用を開始しており、現在のフォロワー数は約400人である。今後は、市民の皆様からスマートフォン等で撮影した写真をツイートしてもらうような使い方ができないか等の検討を行っていききたい。
- ・一般国道22号線のアンダーパスに、大雨時の冠水状況を確認できるようにセンサーを設置し、特に交通量の多い箇所についてはバルーン式交通遮断機を設置している。当遮断機は、地下道が10cm冠水すると自動的にバルーンが作動し通行止めを行うもので、市の職員が現場に出向かなくても迅速な対応が可能となっている。
- ・他市町や民間企業との連携として、7月6日に愛知県西尾張14市町村で「愛知県西尾張市町村の災害対応に関する相互応援協定」を締結し、連携体制の強化を行っている。また、7月14日には佐川急便(株)及び日本通運(株)と「災害時における緊急物資輸送等に関する協定」を締結し、災害時に救援物資が運ばれて来た際の各避難所までの物資の輸送方法等について協力を得られる体制を整えている。

【澤田江南市長】



- ・江南市は比較的水害が少ないと言われているが、平成28年12月に公表された想定最大規模の洪水浸水想定区域図によると、市内全域が浸水エリアに含まれているので、先日の九州豪雨の際の災害についても他人事ではないと感じている。
- ・情報発信として、「あんしん・安全ねっとメールサービス」等により、暮らしに役立つ情報提供を行っている。
- ・水防対策として、洪水に備えて避難勧告等発令基準や洪水ハザードマップの見直し等に取り組んでおり、また道路の冠水が多発している箇所については地元の警察署や水防団等と連携して、交通規制や現地調査等を実施し、市民の皆様の安全安心の確保に努めている。
- ・比較的水害が少ないため、水害に対する意識も低いという懸念があるが、7月14日の豪雨に伴う五条川の越水により、水害に関する意識が高まりつつあると感じているので、意識啓発としてより広報に力を入れていきたい。
- ・木曾川決壊時の避難場所の選定は容易ではないので、住民の皆様には垂直避難等の屋内安全確保行動の周知徹底が必要であり、そのために防災教育を開催するなど水防災意識の向上に繋がる啓発活動に努めていきたいと考えている。

【加藤稲沢市長】



- ・稲沢市は平成26年度より、次の世代を担う小中学生の防災・減災意識を高めるとともに、地域の特性や課題を理解しながら実践的な知識を身につける事を目的に、小中学校を対象とした「防災教育実践指定校委託業務」を実施している。
- ・当該事業の一環として、平成27年度は木曾川大堰付近の長岡小学校において着衣水泳、救命胴衣体験、救命ボート体験等が行われ、水害の危険性が高いという地域の特性に合わせた防災教育が実施された。服を着たまま水に入るといった非日常的な体験をした児童からは、「地震は必ず起こるのだから、今回の体験はとても大切だと感じた」「服を着て泳ぐことがどれだけ難しいか分かった」などの感想を聞いている。また平成28年度は青木川付近の下津小学校において防災紙芝居、防災クイズ、防災マップ作り等のワークショップが行われ、子供達の視点に合わせた防災教育が実施された。紙芝居を見た児童からは、「自分の家の対策について親と話したい」などの感想を聞いている。現代の子供達は、今後非常に大きな災害を経験するおそれがある世代であると言えるので、今後も防災教育を推進していきたいと考えている。
- ・子供達向け以外にも、自主防災会や老人会などを対象に自助の大切さ等を伝える出前講座を開催している。

【犬山市 小川市民部長兼防災監】



- ・犬山市は全国最大規模の人工ため池である入鹿池を始めとして133ものため池が存在する。一方、市東部には山間部が広がっており、河川の氾濫等の水害に加えて土砂災害も警戒しなければならないという地域特性がある。
- ・減災に向けたハード対策として、グラウンドの地下に2,000トンの保水貯留槽を整備したことにより、市街地の浸水深を10cm～15cm軽減。
- ・減災に向けたソフト対策として、地元住民参加型の防災研修を実施。平成28年度は栗栖(くりす)地区において降雨体験車や土砂災害模型の展示を行い、土砂災害の危険性について啓発活動を実施。
- ・山間部はラジオ等電波が安定しないことから、犬山市安心情報メールの配信サービスを実施(当該メールの登録率は全国9位であり、愛知県内では1位)

【扶桑町 岩田総務課長】



- ・扶桑町では災害時の住民への広報手段として「防災行政無線」と「ひまわり安心情報メール」を整備。
- ・平成28年度に同報系の防災行政無線のデジタル化、既存の屋外拡声子局10基の更新と新たに12基を増設。各家庭向けには個別受信機を貸与し、デジタルとアナログの2方式での運用となっていることが特徴。
- ・この防災行政無線は、Jアラート(全国瞬時警報システム)と連動し、気象情報を始め緊急地震速報や弾道ミサイル等の有事情報も瞬時に伝達できる。
- ・平成28年8月より扶桑町防災連絡協議会を設置しており、毎月1回定例会議を開催し、3つのボランティア団体や社会福祉協議会と協議を実施。

【木曾川上流河川事務所長】



- ・先般の九州豪雨や台風5号に伴う滋賀県長浜市の姉川の氾濫を見ても、住民の皆様の災害についての意識が被害の大小を左右すると感じている。
- ・住民の皆様に普段から災害について意識してもらうことが大切。この事が、水防災意識社会の「逃げ遅れゼロ」につながることもあるので、当協議会の取り組みは非常に重要であると考えている。
- ・木曾川上流河川事務所では、学校教育現場における防災教育の支援に係る取組を強化することとしており、今後は愛知ブロックの市町においても展開したいと考えている。
- ・災害に対する意識を高めることが一番大事なので、住民の皆様に自ら命を守るという行動をとってもらえるよう、今後も継続的に取り組みを行っていきたい。